ひかりのこ

6月園だより

認定こども園
聖ミカエル幼稚園
2026年5月22日

安心の中で育つ6月

新年度が始まってから2か月が経ちました。4月当初は緊張した表情を見せていた子どもたちも、少しずつ園生活に慣れ、安心して過ごせるようになってきています。朝、自分から「おはようございます」と挨拶をしたり、先生や友だちに思いを伝えたりする姿も増え、一人ひとりの成長を嬉しく感じています。

乳児部の子どもたちも、少しずつ園生活に慣れ、安心した表情で過ごせる時間が増えてきました。先生に抱っこされたり、優しく声をかけてもらったりする中で、「安心できる場所」と感じられるようになってきています。一人ひとり生活リズムや発達の姿は異なりますが、それぞれの気持ちを丁寧に受け止めながら、安心して過ごせる環境を大切にしています。

明日は総会も予定しております。園で大切にしている保育や子どもたちの育ちについて、保護者の皆さまと共有できる時間となればと思っております。お忙しい中とは存じますが、ご参加いただけますようよろしくお願いいたします。

幼児部では来週、参観日を予定しております。園で過ごす子どもたちの姿や、友だち・先生との関わりをご覧いただければと思います。参観日では、つい周りの子どもたちと比べてしまうこともあるかもしれません。しかし、大切なのは「今、その子がどのように育とうとしているか」という姿です。それぞれの歩みや頑張りを温かく見守っていただければ幸いです。また、7月には運動会を予定しております。これから少しずつ活動に取り組んでいきますが、勝ち負けやできる・できないだけではなく、「やってみようとする気持ち」や「友だちと力を合わせる喜び」を大切にしていきたいと考えています。練習を通して、挑戦することの楽しさや、仲間と心を合わせる経験を積み重ねながら、一人ひとりが安心して参加できる運動会となるよう準備を進めてまいります。

乳児部も幼児部も子どもたちと先生とのつながりが一層深まり、「愛されている」「大切にされている」と感じられる安心感は、子どもたちの心の安定につながります。そしてそれは、自分らしさを発揮する力や、新しいことに挑戦する意欲へとつながっていきます。一人ひとりの思いに寄り添いながら、安心できる環境を大切にしていきたいと思います。

季節の変わり目で疲れが出やすい時期でもありますので、ご家庭でも十分な休息と健康管理にご配慮いただき、毎日元気に登園できますようご協力をお願いいたします。

園長　小澤　暢子

祈りの種

イエスさまの教える祈りとは、決して宗教的な用語やていねいな言葉を並べることではありません。心の内に、だれかと共に歩むこと、つまり大切に思う存在をいつも心に留め、いつも「となり」に感じる生き方を選ぶことです。聖書には次のような言葉があります。

「互いに重荷を担いなさい。（ガラテヤの信徒への手紙 6章2節）」

私たちは日常のふとした瞬間に、自然とこの「重荷を担い合う」ような祈りを子どもたちとの関係を通して抱いています。「今日はお友達と楽しく過ごせるだろうか」「明日は元気に笑えますように」と園児に寄り添って心の中で語りかけます。これらはすべて、誰かに教えられたものでもなく、私たちが自分の心の中にその子を迎え入れ、共に歩もうとする温かい眼差しから生まれた「祈りの種」です。

祈りは、この誰かに伝えている訳でもない祈りの種を、「目に見えない存在（教会では「イエスさま」とか「神さま」と呼びます）」に託す対話のことです。そして心の中で祈る相手の人生に寄り添い、離れている時間も共に過ごすあたたかな心の交流です。

誰かを想い、その幸せを願うとき、あなたの心にはその人が共に生きています。そして同時に、あなた自身もまた、知らない内に、誰かの祈りに支えられ、共に歩んできたのです。

忙しい毎日だからこそ、形にとらわれる必要はありません。ほんの一瞬、心の中でその子の手を握り、となりで歩む時間を思い描き「祈りの種」を託してみてください。一人一人のあたたかな心の声が、子どもたちの未来を優しく包み込む希望の花庭へと育ちますように。

チャプレン　上平　更